

富山工業高専と富山商船高専の統合に関する協議について

平成 18 年 9 月 26 日

富山工業高等専門学校と富山商船高等専門学校は、独立行政法人国立高等専門学校機構において検討・承認された「国立高専の整備について ～新たな飛躍を目指して～」(平成 18 年 9 月)に基づき、両校の統合・再編に向けた協議を開始することで合意しましたので、お知らせ致します。

今後、統合検討委員会(仮称)を早急に立ち上げ、具体的な検討を開始する予定です。

注 1. 富山商船高専のホームページより転載

2. 関連新聞報道を末尾に掲載

(富山)

25年度までに統合
富山商船と高専 協議入り決定

北日本新聞 18年9月26日(月)

富山商船高専(射水市海老江練合・新湊、千葉 貢校長)と富山工業高専(富山市本郷町、米田政明校長)は25日、再編統合に向けて協議に入ることを正式決定した。

近く両校教職員によるワーキンググループを発足させて具体的な話し合いを進め、次期中期計画(平成21-25年度)内での統合を目指す。26日に発表する。

22日に全国の国立高専校長会議が東京で開かれ、55高専を管轄する独立行政法人・国立高専機構から「同一県内の国立高専を統合する」との基本方針が示された。これを受け、富山商船と富山高専は、統合に向けて協議のテーブルに着くことになった。

両校は、教育課程の統合に先立つ19年度に事務・管理部門を一本化し、20年度までに学科構成や組織体制などの基本構想を策定。新高専は両校の既存校舎を活用する形でスタートする。

両校は、25日、教職員に対して説明し、理解を求めた。統合の背景について、国の行財政改革で本年度から5年間で5%以上の人件費削減が求められていることなどを挙げ「足腰が強いうちに新たな飛躍を目指したい」とした。

全国的には、宮城県の宮城工業と仙台電波工業の両国立高専が今月13日、統合に向けて協議を進めると、発表している。

(弓削)

国立高専全国的再編に対応
弓削商船が検討部会

愛媛新聞 18年10月28日(土)

弓削商船高専(越智郡上島町弓削下弓削、西垣 和校長)は、高専の全国的再編に合わせて同校の方針を決めるため、27日までに学内の意見を集める、「検討ワーキンググループ」を設置。11月から協議に入ることを決めた。

国立高専機構が9月22日公表した高専生き残りのための再編構想「国立高専の整備について」を受けた措置。同構想では、人口の減少や厳しい行財政事情に対応しつつ教育の質向上を図るため、県内や近隣の高専統合や、一高専内での学科数削減を行う一方、学士資格を取得できる専攻科の充実を図るとしている。

弓削商船の検討ワーキンググループは、若手教職員11人で構成。構想に対する学校の方針を決めるための学内の意見を聞く場との位置付け。

同校の友田進副校長は「弓削商船にとって学科を減らすのがいいのか、統合するのがいいのかを含め、まずは自由に意見を出し合ってもらおう」と話している。

同構想を受けた高専再編は、これまでに宮城と仙台電波の両高専、富山と富山商船の両高専がそれぞれ統合協議開始で合意している。